第1回 古文 古文のイントロダクション

ポイントの確認　皆さんはこれまでに、次の歌を歌ったことはありませんか？　あるいは、卒業式で歌う予定はないですか。

文部省唱歌「仰げば尊し」

仰げば尊し　我が師の恩
教へ1の庭にも　はや幾年
思へば　いと2疾し　この年月
今こそわかれめ　いざさらば3

実はこの歌には、皆さんも一度は学習しているはずの、古文の基礎となる三つのポイントが含まれているのです。一つひとつ見ていきましょう。

❶ 歴史的仮名づかい

現代では「教へ」は「教え」、「思へば」は「思えば」と書きますね。このような古文で用いられた仮名づかいを「歴史的仮名づかい」といいます。ただし、これは書き方に限ります。読み方は現代語と同じと考えてかまいません。つまり、今私たちが話しているのと同様に、「教へ」は「おしえ」、「思へば」は「おもえば」と読んだのです。

□(1)　**語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と発音します。**［例　いへ（家）→いえ。くふ（食う）→くう］。

☆　**次の古語は現代語ではどのように読みますか。ひらがなで答えなさい。**

□①　おもふ（思ふ）　〔　　〕
□②　には（庭）　〔　　〕
□③　かほ（顔）　〔　　〕
□④　かは（川）　〔　　〕
□⑤　つかひ（使ひ）　〔　　〕
□⑥　にほふ（匂ふ）　〔　　〕
□⑦　あはれ　〔　　〕

□(2)　**「ゐ・ゑ・を・ぢ・づ」は「い・え・お・じ・ず」と発音します。**

☆　**「ゐ・ゑ」と書いて練習しましょう。**

ゐ					

ゑ					

☆　**次の古語は、現代語ではどのように書きますか。ひらがなで答えなさい。**

□①　ゐなか（田舎）　〔　　〕
□②　こゑ（声）　〔　　〕
□③　はぢ（恥）　〔　　〕
□④　みづ（水）　〔　　〕
□⑤　やをら　〔　　〕

□(3)　**母音が「う」の音に続く場合は、次のように発音します。**

A「あう」→「おー」［例　まうす（申す）→もーす］
B「いう」→「ゆー」［例　ひさしう（久しう）→ひさしゅー］
C「えう」→「よー」［例　けうくん（教訓）→きょーくん］
D「おう」→「おー」［例　おうず（応ず）→おーず］

☆　**次の古語は現代語ではどのように読みますか。ひらがなで答えなさい。**

□①　たまふ（給ふ）　〔　　〕
□②　いうれい（幽霊）　〔　　〕

参考　いろは歌―ほとんどの仮名が含まれています。覚えましょう―

いろは　にほへと　ちりぬるを　わかよ　たれそ　つねならむ
うゐの　おくやま　けふこえて　あさき　ゆめみし　ゑひもせす
（色は　匂へど　散りぬるを　我が世　誰ぞ　常ならむ
有為の　奥山　今日越えて　浅き　夢見じ　酔ひもせず）

Q&A「暗記は役に立つのですか」

先生から「覚えろ」、「暗記しろ」と言われたことはないですか？「暗記なんて古くさい」などと馬鹿にしないでください。古典の有名な一節を声を出して読み、覚えてください。必ず役に立ちますよ。

SAMPLE

❷ 現代語とは意味の異なる言葉

「いと」って何だろう？「糸」かななどと思って当然です。この「いと」は、現在では使われなくなった「非常に」「たいそう」という意味の副詞なのです。「疾し」は「はやい」という意味の形容詞です。つまり「非常に早い」という意味になります。

このように古語には、現代語とは異なる言葉が多くあります。古文読解に必要不可欠な重要語は、数え方にもよりますが、約二百語であるといわれています。このテキストであつかったものだけでも覚えていきましょう。

古文の読解も英文和訳と同じで、単語力が勝負になってきます。ちなみに、古文単語は次のように分類できます。

- 回 現代語にもあるが、意味がちがう古今異義語
- 回 知らなければ訳せない古文の特有語
- 回 現代語訳の要点になる文法的用語

では、『徒然草』第五十二段からの問題です。皆さんも一度は読んだことがあるのではないですか。まず、左下の現代語訳を読まずに解いてください。解けない場合は、読んでみてもう一度やってみましょう。

☆ **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、①＿＿心うく覚えて、あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、A＿＿かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人に②＿＿あひて、「③＿＿年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、④＿＿ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はB＿＿あらまほしきことなり。

(1) ＿＿線①～④のこの場合の意味として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号を○で囲みなさい。ただし、④は、「ゆかし」という言い切りの形の意味を選びなさい。

□① ア 不安に　イ 残念に　ウ 大切に　エ 不思議に

□② ア 争って　イ 一致して　ウ 聞いて　エ 向かって

□③ ア 長年の間　イ 最近　ウ 若いころ　エ 昔に

□④ ア 懐かしい　イ 上品だ　ウ 知りたい　エ おくゆかしい

□(2) ＿＿線Aは「これだけ」という意味です。法師は「極楽寺・高良など」を何だと思いこんだのですか。それを示している言葉を**三字で書き抜き**なさい。

□(3) ＿＿線Bについて、「あらまほし」の意味を答えなさい。

《現代語訳》

仁和寺に(いた)ある法師が、年をとるまで石清水八幡宮にお参りしたことがなかったので、①心うく思われて、あるとき思い立って、ただ一人、徒歩で参拝した。(ふもとにある)極楽寺や高良神社などを拝んで、これだけのものと思いこんで、帰ってしまった。

さて、仲間に②あひて、「③年ごろ思い続けてきたことを果たしました。話に聞いていたのにも勝って、尊い御有様でした。それにしても、お参りに来た人々が皆山へ登ったのは、(山の上に)何事があったのでしょうか。(それを)④ゆかしかりはありましたが、神社へ参拝するのこそ本来の目的であると思って、山までは見ませんでした」と語ったことである。

ちょっとしたことにも案内者はB＿＿あらまほしきことである。

SAMPLE

練成問題　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（平家物語）

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、①＿＿をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ②＿＿揺りする漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。〈沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。〉③＿＿いづれもいづれも A＿＿晴れならずといふことぞなき。あ＿＿与一目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ④＿＿迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も B＿＿射よげにぞなつたりける。

与一、かぶらを取ってつがひ、よつぴいてひやうど放つ。C＿＿小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、裏響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞい＿＿散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

(1) この文章の情景について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① この情景はいつごろのことですか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 早朝　イ 真昼　ウ 夕方　エ 深夜

□② この情景がいつごろのことか判断できる理由として、「酉の刻」という言葉があります。もう一か所、はっきりと判断できる理由になる語句がありますが、その語句を**書き抜き**なさい。

□③ 主人公の与一は、沖の平家方でしたか、陸の源氏方でしたか、答えなさい。

□(2) ＿線①～④をそれぞれ現代かなづかいになおし、**すべてひらがな**で書きなさい。

①	②	③	④

□(3) ＿線Aを現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 快晴の天気であった　イ 晴れがましい情景であった
ウ 気持ちが沈んでいた　エ 空は晴れてはいなかった

□(4) ＿線Bを現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 射にくく　イ 射ようという気に
ウ 射やすそうに　エ 射たような気に

SAMPLE

□(5)　――線**C**を現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア　小兵とはいいながら　　**イ**　小兵といっしょに

ウ　小兵であったので　　**エ**　小兵と言っていたので

(6)　――線**あ**について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①　「与一」のあとに助詞を補うとすれば、どれが適切ですか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　で　　**イ**　に　　**ウ**　を　　**エ**　は

□②　「目をふさいで」与一が祈った内容のうち、最も重要な部分はどこですか。**十五字で書き抜き**なさい。

□(7)　――線**い**「散ったりける」とありますが、何が「散って海に落ちた」のですか。答えなさい。

(8)　〈沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。〉という部分に用いられている技法について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①　この技法について述べた文として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア　人間以外のものを人格化し、人間にたとえています。

イ　組み合わせの語句を用い、対照的に表現しています。

ウ　あるものを他のものに直接たとえて表現しています。

エ　同じ語句を何度も繰り返し、感動を強調しています。

□②　この技法の名称として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア　直喩法（ちょくゆ）　　**イ**　反復法　　**ウ**　擬人法（ぎじん）　　**エ**　対句法

□(9)　与一のみごとな成功を見て、人々はどのように感じましたか。最も適切な説明を次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア　あまりのみごとな成功に、平家も源氏も、声さえ出せないほど感心しました。

イ　あまりのみごとな成功に、平家も源氏も関係なく、感嘆してはやしたてました。

ウ　平家方は落胆して声も出ませんでしたが、源氏方は感嘆してはやしたてました。

エ　源氏方は落胆して声も出ませんでしたが、平家方は感嘆してはやしたてました。

第1回の重要語句

□心うし　　つらい。いやだ。残念だ。

□年ごろ　　長い年月。長年の間。

□ゆかし　　心がひきつけられる状態。見たい。聞きたい。知りたい。

□あらまほし　　あることが望ましい。

□おぼす　　「思ふ」の尊敬語。お思いになる。

さて、ポイントの3の「今こそわかれめ」についてまだ触れていませんね。この3番目のポイントについては、動詞の活用を学習してから、確認していくことにします。ですが、ちょっとだけ触れておきましょうか。見当のついている人もいるのではないですか？　そう、「係り結びの法則」が3番目のポイントです。第4回で学習しますのでそれまでお預けです。「今こそわかれめ」とはどういう意味かを考えておいてください。

SAMPLE